

北、弾道ミサイル

日本上空を通過

2700キロ飛行、太平洋落下



北朝鮮の弾道ミサイル発射を受け、「これまでにない深刻かつ重大な脅威」と非難する安倍首相。29日午前7時56分、首相官邸

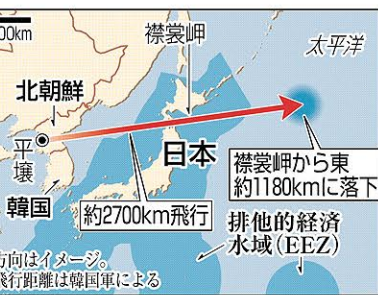
政府によると、北朝鮮は日本時間の29日午前5時58分、弾道ミサイル1発を北東方向に発射した。ミサイルは約2700キロ飛行し、北海道上空を通過、6時12分、襟裳岬の東約1180キロの太平洋上に落下した。日米韓がミサイルの種類などを分析している。安倍晋三首相は「わが国を飛び越えるミサイル発射という暴挙は、これまでにない深刻かつ重大な脅威だ」と非難、国連安全保障理事会に緊急

会合開催を要請し、北朝鮮への圧力を強化すると表明した。

北朝鮮のミサイルが日本上空を通過したのは2016年2月に人工衛星打ち上げと称して長距離弾道ミサイル「テポドン2号」改良型を発射して以来。トランプ米政権は米本土を攻撃できる核ミサイルの保有を阻止するため「あらゆる選択肢」を排除しないとしており、朝鮮半島情勢の緊張が高まるのは必至だ。

新型中距離弾道ミサイル「火星12」(最大射程5千キロ)などの可能性がある。全国瞬時警報システム(Jアラート)が作動した。日本領域内の落下物は発見されおらず、迎撃措置は取らなかった。船舶などの被害も確認されていない。

北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長には今月21日に始まった米韓合同指揮所演習に反発を示すとともに、トランプ米政権に対し圧力路線の転換を迫る狙いがある。北朝鮮による弾道ミサイル発射は今年13回目で、今月26日の短距離弾道ミサイル発射以来。7月4日と同28日には大陸間弾道ミサイル(ICBM)「火星14」の発射実験を実施し、日本海に落下させた。



今月上旬には、4発の火星12を米領グアム沖30〜40キロの海上に撃ち込む案を検討していると表明。島根、広島、高知3県の上空を通過すると予告し、自衛隊は3県と愛媛県に地对空誘導弾パトリオット(PAC3)を展開した。金正恩氏はその後、当面見送る意向を示唆していた。(共同)

本県にJアラート

発射4分後に発信

北朝鮮の弾道ミサイル発射で、政府は29日午前、全国瞬時警報システム（Jアラート）で本県や北海道など12道県にミサイル発射と日本上空の通過を伝えた。総務省消防庁は、各自自治体でトラブルなくシステムが作動したかなどについて確

認を急いでいる。政府は、発射から約4分後の午前6時2分にJアラートで「北朝鮮からミサイルが発射されたもよう。頑丈な建物や地下に避難してください」と発信。6時14分には「先ほど、この地域の上空をミサイルが通過し

たもよう」と伝えた。Jアラートは、ミサイルなどの緊急情報を、人工衛星を使って国から地方自治体に瞬時に伝える仕組み。今月18日には、北朝鮮による米領グアム周辺への弾道ミサイル発射に備え、上空を通過する恐れがある中

国、四国の9県で情報伝達訓練があった。

米圧力路線に強硬姿勢鮮明

【解説】北朝鮮は29日、弾道ミサイルを発射し、日本上空を通過、太平洋に落下させた。地域の安全を脅かす深刻な挑発行為で、米国に「敵視政策」や圧力路線の撤回を迫るための緊張を極度に高めることも辞さない強硬姿勢を鮮明にした。

北朝鮮の核・ミサイル開発放棄を目指し、圧力強化で米国と連携する日本をけん制する意図も明白だ。日米は17日の外務・防衛担当閣僚による安全保障協議委員会（2プラス2）で北朝

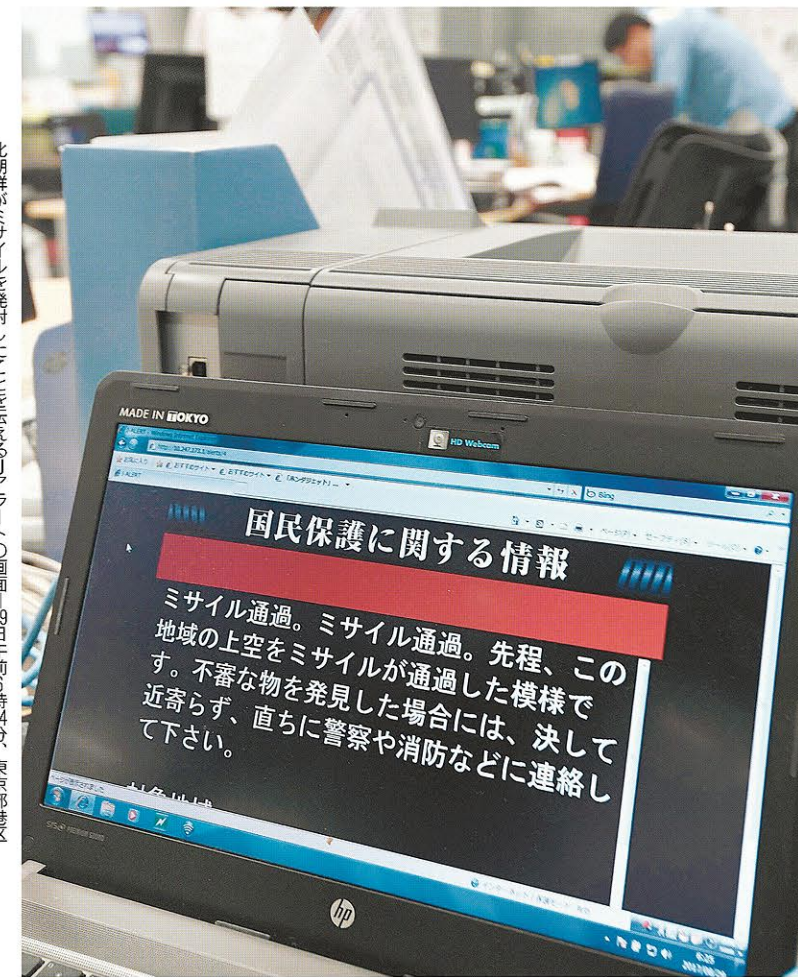
鮮への圧力強化で一致していた。

北朝鮮によるミサイル発射は今年既に10回を超えた。大陸間弾道ミサイル（ICBM）2発を含む各種ミサイルを異例のペースで発射し、米国の政策転換を要求している。米韓で新政権が発足した今年を、対北朝鮮政策の転換に向け勝負をかける時とみている可能性がある。

また、北朝鮮としては、満を持して実施したICBM発射実験後も米国が対話に乗り出さないことに焦りを覚え、さらなる挑発行為に出たとも考えられる。

米韓両軍は31日までの日程で合同指揮所演習を実施中で、北朝鮮は「無慈悲な報復」を警告していた。米国側に一歩も引かない姿勢を示して国内に毅然とした態度を示すとともに、「演習の脅威」を口実として国際社会の批判をかわそうとの思惑もあるとみられる。

（北京共同）



北朝鮮がミサイルを発射したことを伝えるJアラートの画面。29日午前6時24分、東京都港区

火星12 北朝鮮の新型中距離弾道ミサイル。液体燃料を用いた1段式で、米軍呼称は「KN17」。防衛省は最大射程を5千キロと推定。北朝鮮は、グアムに加え、ハワイやアラスカが射程圏にあり大量の核弾頭の搭載も可能だと主張している。5月14日に北西部亀城から東北東方向へ、高く打ち上げるロケット軌道で発射され、約30分間飛行。787キロ先の日本海に落下し、高度は2111.5キロに達したとされる。2段式の大陸間弾道ミサイル（ICBM）「火星14」の1段目には、火星12と同じ系列のエンジンが使われているとみられている。（共同）